



さいたま市介護支援専門員協会
ロゴマーク

アロージャート フェスティバル

Vol.29

2013年春号

平成24年度 第5回全体研修会

「アロージャートでケアマネジメント」パートII

開催日時 平成25年1月13日(日) 13時30分～17時00分

開催場所 岩槻駅東口コミュニティセンター(3階ワツツルームA)

本年度第5回目の全体研修会は、梅光学院大学子ども学部未来学科の准教授である吉島豊録氏をお招きし、昨年1月の全体研修の続編として、「アロージャートでケアマネジメント」パートIIと題し、相談援助者のための頭の整理術についてご講演をいただいた。日曜日にも関わらず約40名の参加があった。

アロージャートとは、ご利用者に関して集められた情報を、ケアプランに落とし込むまでのケアマネ

ジャーの思考の足取りを、○(マル)や□(四角)、↓(矢印)など簡単な記号を使って図式化したものである。介護・福祉専門職が、自らの思考過程を「見える化」することによって、誰にでも優しいアセスメント・サービを担当者会議・事例検討会・スーパービジョンなどが可能になるとされる手法で、県外の介護支援専門員更新研修(演習)でも取り上げられている。

講義では、初めにアロージャートの作り方や構造の解説をしていたが、その後、実際にグループで話し合いながら作成を行った。アセスメントなどで得られた情報を、まず主観的・客観的事実に細かく分け、アロージャートのルールにしたがって線や矢印でつなげ関連付けていく。



すると関連付けた図から「ニーズ」、
「長期・短期目標」が見えてくる。
それがケアプラン第2表に記載さ
れるわけだが、その「ニーズ」と「長
期・短期目標」は、ご利用者の願
いや望みが反映され、根拠も関連
性も実に明確なものになっていた。
講演冒頭で、厚生労働省「介護
支援専門員の資質向上と今後のあ

り方に関する検討会」を踏まえた
今後の動向を教えていただいた。
その中でも、個別性のあるプラン
が今後は求められてくるという点
において、今回の講演は、ケアマ
ネジャーが身につけるべき情報整
理の技術を実践を通じて学べる、
とても良い機会になった。

「平成24年度 さいたま市介護支援専門員協会 行政合同研修会」

開催日時 平成25年3月25日(月) 14時30分～16時30分

開催場所 武蔵浦和コミュニティセンター 多目的ホール(9階)

合同研修会開催にあたり、さいたま市保険福祉局福祉部介護保険課
長 中島マリ子氏よりご挨拶をい
ただいた。

まず、さいたま市の介護保険と高
齢福祉の状況について、平成25年1
月1日現在、さいたま市の人口は
124万4千人。65歳以上の人口が
25万人、高齢化率20.1%。

平成24年9月末、65歳以上の人口
に対する認定率は、約15%の状況。
認定者数は、高齢者人口の増加に伴
い、毎年5%弱で増加すると見込ん
でいる。

平成24年度の法改正では、介護予
防支援の業務委託について、居宅介
護支援事業所のケアマネジャー1
人あたり、8件以内の制限を廃止。
現在、要支援者ケアマネジメントに
ついての包括から居宅介護支援事
業所への委託件数は4割程度。中島
氏は、「今後、委託する件数は増え
ていくと思われれますので、ご理解ご
協力をお願いしたい。」と話した。
次に、地域のことは地域で決めて
いくという流れの中、地域主権一括
法の制定に伴い、さいたま市の独自
基準3点(平成25年4月1日施行)

について、

①記録の保存期間(条例制定され
た全サービス)について、国の2年
基準を5年とする。

②居室の定員(特別養護老人ホー
ム、介護老人福祉施設、地域密着型
介護老人福祉施設)について、国の
1人基準を4人以下とする。

③ユニットの入居定員(特別養
護老人ホーム、介護老人福祉施設、
地域密着型介護老人福祉施設)につ
いて、国の基準はおおむね10人以
下のところ、12人以下とする。

④続いて、平成24年度、介護保険外
の新規事業について、

①介護予防高齢者住環境改善支
援事業として要支援になる前の方
を対象に住宅改修としては、上限
15万円を上限に補助制度を創設。

②介護ボランティア制度につい
て、対象年齢を65歳から60歳へ拡
大。

③長寿応援制度としてサークル
などの団体活動に対して、ポイント
付与制度を開始。

④75歳以上の方などを対象に無
料又は割引で、市内の公共施設等を
利用できるアクティブチケット交
付事業を開始。

⑤さいたま市社会福祉協議会内
にさいたま市高齢障害者権利擁護
センターを開設し、権利擁護の専門
相談窓口や市民後見人などの養成
事業を開始。

中島氏は、「介護保険外の制度や
事業について、高齢者に関わるさい
たま市の施策として念頭に入れて
いただきたい」と話した。

結びに、「さいたま市の判断で何
でもできるものではありませんが、
制度の運用として、できるだけ良い
方向にもっていきたいと考えてい
ますので、現場で直接苦労されてい
るケアマネジャーの皆さんの建設
的なご意見、ご要望を、協会を通じ
てお受けしたい」と述べた。



講演 「夢は語るもの」 ～5坪の店からの出発～

ビデオ上映 「本音で生きるラーメン人生」

「中華そば390円」の看板でおなじみの中華チェーン「日高屋」首都圏の駅前を中心に321店舗を構え、年商約300億円、社員591名、パート・アルバイト約5800名、東証一部に上場し、毎年着実に売上げを伸ばしている。

本年度最後の全体研修は、「日高屋」の創業者である株式会社ハイデイ日高 会長 神田正氏にお越しいただき、「夢は語るもの ～5坪の店からの出発～」についてご講演をいただいた。

神田氏は、昭和16年川越で生まれ（現在72歳）、日高町で育ち（この地名が社名の由来）、子供時代、大変貧しい生活を送っていた。父は傷痍軍人で働くことが難しく、母はゴルフ場のキャデイのアルバイトをし、4人の子供を育てた。長男である神田氏も休日は、キャデイのアルバイトをし、生活費を補っていた。中学卒業後、住み込みで町工場に勤めたが、2週間で辞めてしまい、その後一つ一つの職場で長く働くことが

できず、転職を繰り返して、何をやるでも長続きしない性格で能力は全くないと自分を振り返った。

「このままではいけない」と思っていた神田氏に転機が訪れたのは、友人が紹介してくれた中華料理屋だった。その後数軒で経験を積み、29歳のときに経営者から店長を任されたが、立地条件が悪く閉店。一進一退を繰り返していたところ、大宮の繁華街で貸店舗の張り紙を目にした。わずから5坪と狭い店だったが、昭和48年に「来来軒」を創業。

寝る間も惜しみながら深夜まで営業し、2年後、大宮南銀座に2店目を出店することができた。この2店舗の成功がチェーン化を決意するきっかけになった。

企業化に向け弟2人にも声をかけたが否定的で、当時は外食産業も確立されていなかったため、当然の反応と思っていた。しかし、神田氏は成功を信じていたため、諦めずに情熱とやる気をもって根気よく説明を行い、具体的な目標を示し、



夢を語ることで2人の納得を得ることができた。

神田氏は、人を動かすためには、「夢を語ること」「目標を明確にすること」「リーダーはそれを具体的に示すことが大切と力説する。

その後、平成2年に10店舗となり、平成10年では、チェーン50店目となる「餃炊」（現日高屋）を武蔵浦和に開店し商号を「ハイデイ日高」に変更した。そして、平成18年東証一部に上場し、今も成長し続けている。

将来の目標について、「電車を降りたら必ず日高屋があるようにしたい。首都圏の駅前に出店すれば、約600店舗になる」夢は、創業

時によく見かけた屋台の再現（駅前屋台）を目指している。

また、60歳を過ぎて鍋を振るのはきつくなってくるので、立ち飲み焼鳥屋を立ち上げ、退職者の受け皿も兼ねている。少子高齢化が加速する中、高齢になっても仕事ができる環境を整えることは、大変意義深い。お客様に喜ばれる企業として、常に「謙虚さ」「感謝の気持ち」を忘れずに、地域社会に貢献することをモットーに掲げている。

神田氏は、「貧乏家庭で育ったこと、今ではその体験が自分の人生にプラスになったと感謝している。人間というのは、情熱、考え方（人間性）が大切に能力は二の次。やる気があればほとんどのことができる。情熱に勝る能力はない。また、自己中心的にならない、私利私欲が強くない、何かあったら社会に返したいという姿勢が大切」と語った。

この講演を聞いて情熱とやる気、神田氏の温かみのある人柄が伝わってきた。

「夢は見るものでなく語るもの」どんな状況であってもその成功を信じ、やり続けることの大切さを教えられた。

南区ケアマネサロン

「事例検討会 アローチャートの実践 パートⅡ」

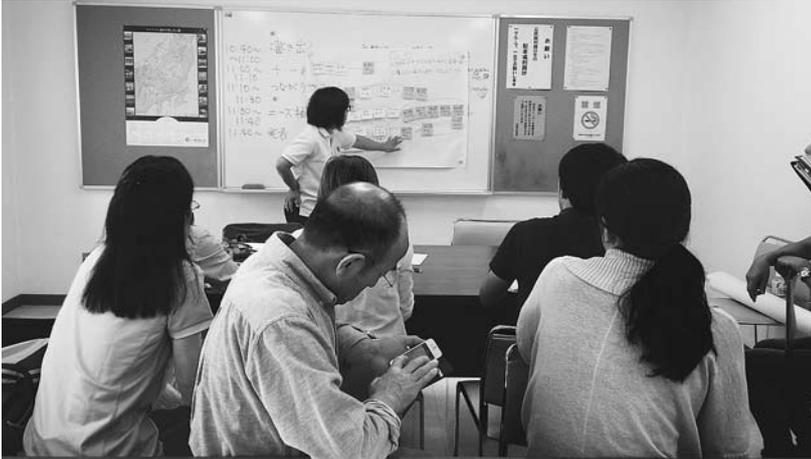
開催日時 平成24年10月11日(木) 10時～12時

開催場所 南区文蔵公民館 第2会議室

今回、第2回目の南区ケアマネサロンでは、6月11日(月)に行われ好評であったアローチャート実践を通じた事例検討会の第二弾を実施した。

まずはじめに、前回に引き続きケアランセンターつむぎの保坂氏より、「アローチャートでケアマジメント」の筆者、吉島豊録先生のアローチャートの考え方を、今回は初めての参加者にもわかり易く、再度説明していただいた。

その後、今回は東電さわやかケアのみ居宅介護支援の鈴木氏より事例の提出をいただき、基本情



報をもとに特定疾病である神経難病の事例を発表していただいた。

2グループに別れ、主観的事実と客観的事実をそれ

ぞれ付箋に書き出し、模造紙に貼り付け、マジックで関係のある付箋の枠を記入し、これらの情報と情報の間に、原因と結果の関係(○)ので(○○)があれば原因から結果に向けて矢印で結ぶ。また相容れない関係(○)けど(○○) 同士は、抗う意味の波線で結ぶ作業を話し合いながら行った。各グループごと模造紙を白版に張り出し、取り上げた主観・客観的事実ごとに発表していった。それぞれの発表から、今回もニーズとしての糸口はいくつか「見える化」によって引き出せた検討会となった。サロン終了後の参加者からは、「情報の関連性を他の人と共有することでニーズがみえてくる。」

「何度か、検討会に参加していくと、アローチャートの仕方はわかるようになってきた」「初めての参加で、最初は関係同士もわからなかったが、検討会後は考え方がわかるようになった」と感想があった。

桜区・中央区ケアマネサロン

「ヨガを通して健康づくり」

開催日時 平成25年1月24日(木) 17時30分～19時

開催場所 TOTAL BODY CARE CENTER (中央区)

約1年ぶりの開催となった桜区・中央区合同ケアマネサロンは、ケアマネ自身の健康づくりとストレス解消を目的として、運動でリフレッシュすることを企画した。

計15名が参加した。また会員外へも声かけし、当協会PRを兼ねて交流をした。他にはサーキット&ダンス

全身ストレッチを中心としたヨガは初体験の方が多く、瞑想のポーズ、猫のポーズなどを行いながら、あちらこちらからため息も

ステップ(シェイプアップ)やアルファ細胞(全身代謝アップ)、ゲルマニウム温浴(血行・新陳代謝亢進)、酸素バーを無料で体

岩槻区ケアマネサロン会

情報交換会 ～ほっと一息ついてみよう～

開催日時 平成25年1月25日(金) 18時～19時30分
開催場所 コミュニティセンターいわつき 会議室A

今回の岩槻区サロン会は日頃の業務の情報交換会を行った。寒風吹きすさぶ中12名の参加があった。

2グループに分け座談会形式で開催。日頃の業務の問題点や、困難事例の対応について話し合いを行った。

医療依存度の高い方の支援や、家族の協力を得ることができない方の事例、今まで対応した困難なケース等について活発な意見交換が行えた。

どの事業所も対応に困難なケースの共通点として、・ 独居・介護者の協力や介護力が期待できない・医療依存度が高い・虐待(疑い)等がありサービスの調整や対応に奔走している様子があるがえた。特に一人ケア



験利用した。

終了後の感想では「いい汗をかけた」「ストレス解消になった」「運動を勧める身でありながら運動不足だったことを痛感」などの他に「施設のケアマネのため、なかなか他のケアマネとの交流の場がこれまで少なく淋しく感じていた」という意見があり、一緒に汗を流し、気軽に意見や悩みが話せる「和み」の場としてのケアマネサロンも意義があると感じた。

マネの事業所では相談相手がない為、判断や対応に困ったりする場面も多い。こうした情報交換会を行うことにより少しでも抱えている問題を解消し、他事業所との連携を深めるきっかけにもなると感じた。

今後ますます医療的ニーズの利用者が予想される中、福祉系のケアマネジャーが多いのが現状である。医療の知識不足が懸念視されている今日、定期的な研修会、勉強会が重要であり、区内事業所の全体的なケアマネジャーのレベルアップが必要と感じた。

西区・桜区合同ケアマネサロン

「居宅実地指導勉強会」

開催日時 平成25年2月19日(火) 15時～16時30分
開催場所 馬宮コミュニティセンター

本年度2回目の西区・桜区合同ケアマネサロンは「居宅実地指導勉強会」をテーマに、参加者12名にて開催された。

実際に、実地指導を受けた、2か所の事業所からの

報告をメインとし、その後、「監査あるあるグループディスカッション」として、情報交換を行った。

事業所からの報告は、①事前提出書類の内容や、準備で苦労した点、②確認されたケース数とその内容、③指導、指摘を受けた点について、④改正前と改正後の実地指導の違い、⑤これ





んへ一言、などの内容について、細かく説明があった。指導を受けたケアマネジャーの感想として、「ケアマネ数が多い上に、事前準備期間が短く、休日返上で、書類整理にあたった」「書類整理は、日頃の業務の見直しができ、とても勉強になった」などの意見が聞かれた。

加算を取るための注意点など、日頃から不安に思っていることや、自信がない点においての質問が多く、日々、業務に取り組んでいる中で、少なからず、実地指導において、不安を感じていることが分かり、情報交換の大切さを感じた。

また、今回初めて「実地指導勉強会」を開催したが、ケアマネ同士の情報交換は、日頃の業務負担軽減、適切なケアプラン作成などにもつなげることができ、サロンの大切さを感じることもできた。

新人のケアマネジャーからは、「一人ケアマネなので、とても勉強になった、早速、書類を見直してみます」という意見や、実地指導を何回か経験しているケアマネジャーからは、「ケ

アマネジャーからは、恐れることなく、利用者の為に行つたと、流れなど説明できれば問題なし」などの意見も聞くことができた。

今後も、ケアマネジャー間の情報交換の機会を増やし、地域のケアマネジャーとしても、スキルアップにつながるようなサロンを、企画、提案していきたいと考えている。

南区ケアマネサロン

「事例検討会 アローチャートの実践 パートⅢ」

開催日時 平成25年3月15日(金) 10時～12時

会場場所 武蔵浦和コミュニティーセンター8階 第10集会室

今回の南区ケアマネサロンも、梅光学院大学の吉島准教授が提唱される「アローチャート」の実践を通じた事例検討会を開催した。今回で3回目となり、今回はケアプランサービスマナミ風の吉永氏より事例を提供していただき、グループごとに事例検討、検

討結果の発表を行った。参加人数は10名で2グループを作った。最初にケアプランセンターつむぎの保坂氏より、アローチャートの説明を簡単にしていただいた。今回は(前回の検討会で沢山の主観的・客観的な事実から複数のニーズが抽出され混乱した状態となっ

た為)最初から一つのニーズに絞り検討をすることにした。その後、グループワークを行い、主観的・客観的な情報から導かれた「短期目標」・「長期目標」・「援助内容」をグループごとに検討・発表した。

発表後、事例提供者の吉永氏より、「皆さんでアローチャートでの【見える化】させる方法で、自分とは違った方法によりケアマネジメン트가発表されたことで、目からうろこな心境です。今回、事例を提供してとても参考になりました」と感想をいただいた。参加したケアマネジャーからも「参加を続けることで、アローチャートの考え方もだんだん分かってきた」「今後はこれを本来の業務に活かしていきたい」などの感想もあった。今回で3回目となるが、今後も機会があ

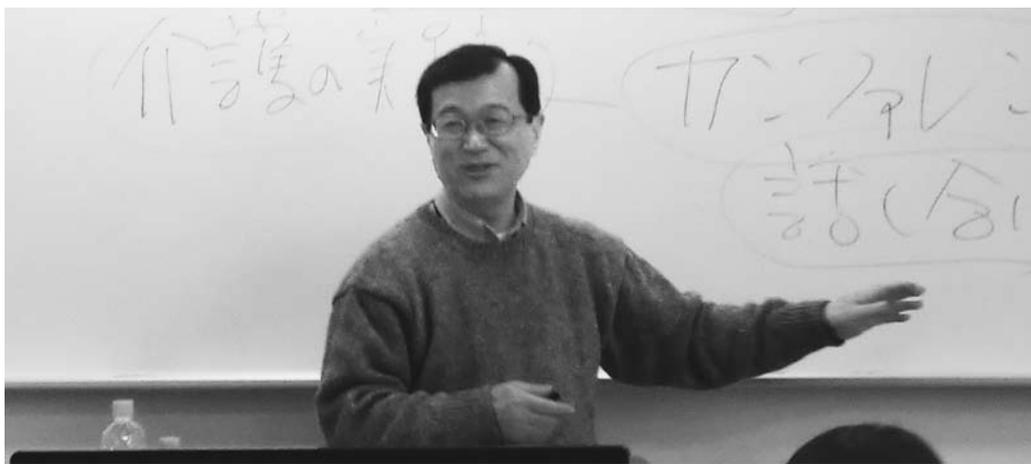


れば事例検討会を実施し、少しでも多くの会員にアローチャートを提案していきたい。

「実践の振り返り・リフレクション」

開催日時 平成25年2月2日（土）13時30分～17時

開催場所 介護老人保健施設尚和園アンシャンテ（緑区）



当協会ではすでに恒例となった、神奈川県立保健福祉大学の峯尾武巳教授を講師に、「実践の振り返り・リフレクション」のテーマで事例検討の研修会を開催した。

研修会は、4段階から構成される演習が中心であった。

演習1では、施設ケアの特徴について意見交換を行った。

演習2では、施設の介護を個別事例から見直し、参加者それぞれが問題と感じていること（気がかりな場面・支援を巡る行き詰まり感など）をワークシートに記入した。

演習3では、施設ケアプランと介護過程について意見交換を実施。施設の基本は生活を支援する介護であり、介護の計画をきちんと伝える方法論（教育）が必要である。介護実践の根拠を示すことが介護過程であり、介護をマネジメント

する過程を振り返ることが大切であることを学んだ。介護実践の根拠には、専門職に必要な知識・技術の習得が不可欠であり、アセスメントの価値を高めるツール（ICFやマズロー欲求説）を振り返ることが大切であることを再確認した。

演習4では、支援者としての介護者の行為の視点から、演習2で作成したシートを基に展開過程を振り返った。二人一組となり、少ない情報の中から想像を働かせ、対象者のプロフィールや事例提供者の動機にも思いを馳せることで、事例提供者の思いを共有しながら自分自身の振り返りを行うことができた。そして、実践で出てきたエピソード



と自分の課題分析や設定が合っているのかを振り返ることができた。

定員を超える36名の参加者中、有料老人ホームとグループホームからの参加者が19名を占め、関心の高さを改めて確認した。会員応募も数名あり、企画・運営への参加意思を示された方がいたことを報告する。

ちょっと coffee break

目指せ、マジシャン 会員K

先日、気の置けない仲間たちとマジックショーを観に行く機会に恵まれました。

子どものころに見たことのある手品ともテレビで見る派手なイリュージョンとも違い、私にとってのマジックショーはとても魅力的なものでした。

ショーの内容は、食事をしながらステージでのショーと各テーブルを回るテーブルショーを楽しむというものでした。

華やかなステージでのショーに引き込まれましたが、目の前で行われるテーブルマジックには感激と驚きでいっぱいでした。これほど目の前で見ているのに「え～っ何で！」の連続です。

マジックのテクニックもさることながら、見事な話術にも驚かされました。そんな中、マジックが最高に盛り上がったところでマジシャンが係の人に呼ばれテーブルを離れなくてはならない事態に！何かの用事と思われ私たちはおしゃべりに・・・ほどなくマジシャンはテーブルに戻りマジック再開。

とても楽しいひと時を過ごしお店を出たところ、仲間の一人の「あの時の中座でやっぱり腰を折られたわね」という言葉の後に「私も仕事でそうすることあるわ」の言葉にハッとしました。確かに複数の利用者さんに対してこちらは一人・・・「ちょっと待ってね」をしていることは自分にもありました。どんなに良い雰囲気でもたった一言で180度変わってしまうことだってあり得るし、自分では気がつかないうちに相手を不快にさせてしまうこともあるのだと言うことを実感しました。

今回のマジックショーでは思わぬ収穫がありました。おまけで教えてもらったマジックの種明かしや、相手の心をつかむ巧みな話術と相手の心を逃がしてはいけないタイミング、これは大変勉強になりました。

「目指せマジシャン」の気持ちで使いこなせるように日々訓練の意気込みです。ともあれ、とても楽しい非日常を過ごせた一日でした。

平成 25 年度 さいたま市介護支援専門員協会

「通常総会 及び 全体研修会」開催日のご案内

平成 25 年 5 月 18 日 (土) さいたま共済会館

元 NHK アナウンサー 堀尾 正明氏をご講演されます。 乞うご期待ください。

テーマ 「誰とだって 波瀾談笑」 ～心の通うコミュニケーション～

事務局より

会員の住所・事業所等登録事項に変更があった場合や入会・退会希望の場合は事務局までご連絡ください。

さいたま市介護支援専門員協会 事務局 野崎・西間木

(社福) さいたま市社会福祉協議会 大宮サービスセンター

電話番号 048 - 645 - 7470

FAX 048 - 645 - 7500

さいたま市介護支援専門員協会ホームページ

<http://www.saitamashi-keamane.jp>